

産業立地の促進と新産業用地の整備 兵庫県

優れた立地特性

北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介して太平洋へと続く広い県域を持つ兵庫県。県南部の臨海部は、鉄鋼、機械・金属、化学などの産業が集積する全国有数の工業地域。一方、県中部、北部は、ブランド産品で知られる農林水産業が盛んな地域だが、近年は企業立地も進む。優れた立地特性が兵庫県の強みで、陸・海・空の充実した交通ネットワークを持ち、“西日本の交通結節点”となっている。

また県では、産業立地条例に基づき補助金や税軽減により企業の県内立地を促進している。特に、次世代成長産業（水素等の新エネルギーや蓄電池、航空、ロボット、健康医療、半導体関連に関連する製造業）や本社機能・試験研究施設の立地に対する支援を強化している。

■兵庫県のデータ

面積：8,401 km²
 人口：5,372,420人（2023年9月1日現在・推計人口）
 県庁所在地：〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
 TEL：078-341-7711（代）
 ホームページURL：https://web.pref.hyogo.lg.jp/

世界を視野に入れたモノづくり拠点に最適 —「播磨科学公園都市」—

「播磨科学公園都市」は県南西部の3市町（たつの市・上郡町・佐用町）にまたがる自然豊かな丘陵地にある。世界最高性能の大型放射光施設SPring-8、X線自由電子レーザー施設SACLA（さくら）、兵庫県立大学などの先端科学研究機能を備えており、モノづくりのための支援体制が充実している。また、播磨自動車道が山陽自動車道に加え、2022年3月から中国自動車道と直結し、交通アクセスが大きく向上した。



提供：兵庫県



提供：兵庫県



提供：兵庫県

大規模区画にも対応可能 —「淡路津名地区産業用地」—

本州と四国を結ぶ交通の要衝、淡路島東海岸の中央部に位置する「淡路津名地区産業用地（生穂地区）」は、最大15.6haもの広大な区画が確保可能で、大規模区画を中心に整備されている。地区内には、耐震強化岸壁を備え、市の防災拠点も立地する、充実のインフラが魅力だ。

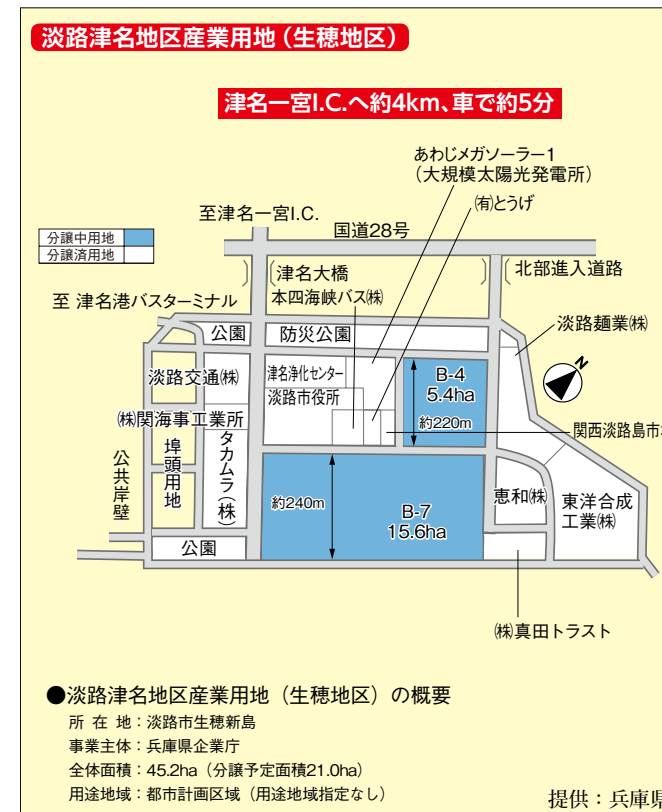


提供：兵庫県

新たな産業団地を計画中 —「ひょうご情報公園都市(第2期)」—

「ひょうご情報公園都市」は、山陽自動車道三木東ICに近接しており、大阪、姫路をはじめ岡山、広島方面や、三木JCTから淡路、四国方面と多方面に接続し、交通アクセスに優れている。

兵庫県企業庁は、三木市と共同で、企業立地の促進や雇用の創出など地域創生に取り組むため、新たな産業団地を計画している。



●淡路津名地区産業用地（生穂地区）の概要

所在地：淡路市生穂新島
 事業主体：兵庫県企業庁
 全体面積：45.2ha（分譲予定面積21.0ha）
 用途地域：都市計画区域（用途地域指定なし）

提供：兵庫県



提供：兵庫県

西日本の主要都市へのアクセスに優れた大規模用地 —「加西インター産業団地」—

「加西インター産業団地」は大阪・九州へ好アクセス、ハザードエリア外など西日本の事業拠点として期待されている中国自動車道加西IC周辺に整備中の待望の新産業団地だ。

全体48.8haのうち、1期事業である加西IC北側の4つの工区（1-1・1-2・2・4工区）に引き続き、南側の2期事業（3・5工区）にも着手している（2026～2027年度完成予定）。

固定資産税5年分、水道料金10年分のキャッシュバックなど独自支援も充実（条件あり）。アパート、物販飲食店が多く立地する北条市街地まで車で5分と高い利便性も魅力だ。



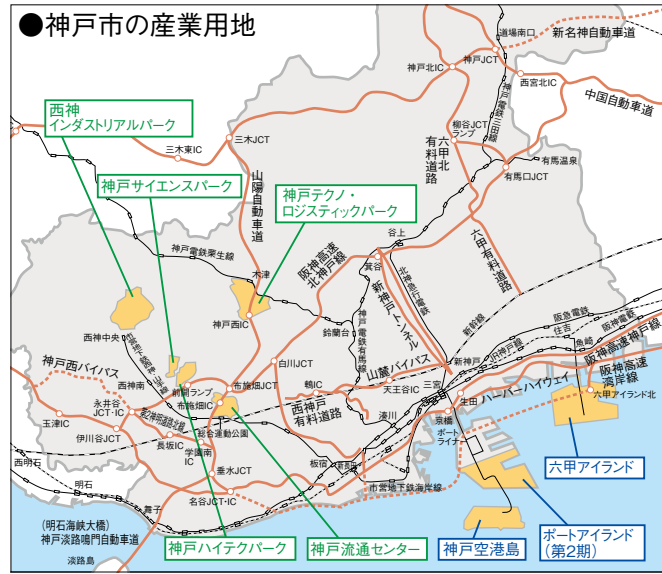
加西インター産業団地

※本図は設計中及び関係機関との協議中の参考図です。確定図面ではありません。
 ※建設状況は個別にお問い合わせください。

提供：加西市

陸路・海路・空路が集結・連携する国際都市 —神戸市—

古くから交通の要衝であり、国際港湾都市として発展してきた神戸。モダンな雰囲気や生活の便利さから、「住みやすい都市」として世界的に評価される国際的人気都市だ。陸路・海路・空路すべての交通機関が集結・連携し、あらゆる事業ニーズに応えられる広域交通網を備える。さらに、阪神淡路大震災の経験を生かし、災害に強いまちづくりを確実にかつ先進的に行っている。懸念される南海トラフ最大級の地震が起きたとして、神戸で想定される津波水面高は最大4m（内閣府調査）。それに対して臨海部の「ポートアイランド（第2期）」の地盤高は4.5～6m、護岸高は9mと高く、津波への備えは堅い。



研究機関、医療産業が集積するビジネス拠点 —「ポートアイランド（第2期）」—

「ポートアイランド（第2期）」は、市街地に近く、陸・海・空の交通アクセスに優れたビジネス拠点だ。市が推進する「神戸医療産業都市」の中核地で、最先端の研究機関、高度専門病院、医療関連企業や大学など現在約370社・団体が集積する。2021年3月には理化学研究所がスーパーコンピュータ「富岳」の供用を開始した。優秀な人材の確保も含め、研究開発に適した立地環境が魅力だ。



物流・製造に最適な用地 —「神戸テクノ・ロジスティックパーク」—

「神戸テクノ・ロジスティックパーク」は、内陸型の複合産業団地として1998年に誕生し、これまで約160社の企業が進出。計画面積は270haにのぼり、物流施設用地と製造工場用地の2用途で関西屈指の規模を誇る。団地内に直結する山陽自動車道神戸西ICから広域幹線網にアクセスできることに加え、三宮都心部まで27分の好立地にある。また、隣接地に、製造工場用地と物流用地から成る新たな産業団地を造成し、持続可能な企業活動を実現するスマートな産業団地を目指す。



充実の企業進出サポート体制

企業誘致に取り組む神戸市では、用地の相談から、優遇制度の案内、契約、さらには進出後のビジネスマッチングまで幅広く展開。インセンティブ面も充実しており、税優遇や補助金など、多彩なメニューを用意し、企業進出を全力でサポートする体制が整っている。

- 固定資産税・都市計画税を最大10年間2/3軽減
- 企業拠点移転への補助

※各制度の詳細は神戸市企業進出総合サイトKOBEBUSINESS WIND (<https://kobe-investment.jp/>) をご確認ください。

※本頁掲載の写真、図は神戸市の提供